

# 第11回 JAL解雇撤回国民共闘総会開かれる



京都市京セラ美術館前

支援共闘会議発足から一〇年、二月十七日午後六時半よりWEBによる「JAL不当解雇撤回国民共闘総会第一回の総会」が開催されました。争議団含めて約一〇五名の参加でした。

開会あいさつ  
清岡共同代表（全労連副議長）

不当解雇から一〇年。コロナ禍の中でも様々な行動を行っ

（取り組みが困難だったことは一つの要因である。

闘いに休憩はない。一〇年を経過した今、争議の完全解決はより一層切実である。支援者より原告が知恵を出し合い、力を合わせて結集していかなければ大きな組織や権力に太刀打ちできない。原告の納得のいく解決のために、次回結集する場合は全面解決集会にしようではないか。



当該労組両委員長のあいさつ（別掲）の後、津恵事務局長による経過報告と今後の取り組みについて提案されました。

その後の討論では各地域での活動報告、意見および要望などが述べられました。

## 【主な発言】

・一〇年の総括が必要。原告団・

労働組合・支援者が総括を一致させ団結を獲得する必要がある。特別協議ではなく団交を申し入れ、全国的宣伝を応じなければ労働委員会に。国会議員への要請を強化。一〇〇〇名の支援弁護士のアピールを出してほしい。

・今の流れでは解決しない。一〇年の総括を正面から行い教訓を導き大きな組織を作って全国統一運動を提起してほしい。大企業の争議解決には第三者機関を入れるべき。

・株主総会行動に全国展開すべきではないか。国会議員の取り組みが前進しているが、国会議員に対して支援弁護士一〇〇〇人と事務局と一緒に真剣に働きかけてもらいたい。政治的に解決する以外にない。

・真剣な一〇年の総括がない。労組潰しをしつかり受け止め、納得できる解決をめざすべき。

特別協議は凍結し、解決に特化した団交の申し入れを行い、社会的にJALを包囲する必要がある。

・コロナ禍の中でもよく頑張ってきた。国会の動きは勇気ももたらした。今後の取り組み方針に従ってすみやかに具体化してほしい。

・会社は引き延ばし自滅を待っているのではないか？早期解決にはどうすべきか議論してほしい。

(二頁につづく)

## 両争議団代表あいさつ

(山口パイロット団長)

一〇年の振り返りは争議団でも行っていて、いろいろな意見がありますが、それも踏まえて今後も闘っていく。一〇年頑張ったことも確認している。目先にとらわれやすいが、解雇の狙いを頭において闘っていくことを確認している。あらゆるツールを使っていきたい。国会議員は率直に私たちの解雇問題を受け入れてくれている。納得いく解決めざして頑張る。

(内田客乗団長)

雇用を軸に解決と会社は言ったが、客室乗務員争議団には未だ何も回答がない。会社は決断力がない。男女差別当たり前の職場で結婚・妊娠したら働き続けられなかった中で闘ってきたものという客室乗務員が二〇一〇年狙い撃ちされた。総会の方針に加えて、ジェンダー平等を高らかに掲げて全国の女性達とより一層連帯し、解雇問題、現場の客室乗務員の実態も広く訴え改善していきたい。「何としても解決する」決意で原告団一同奮闘する。

## 【支える会運営委員会として熱く御礼申し上げます】

事務局長 柚木康子

コロナ禍で物販活動もなかなか難しいなかで、JAL争議団に対する支援の年末カンパなど、多くのご協力をいただきました。

1月末までのカンパは2,005,000円となりました。カンパ金は12月、1月、2月と3回にわたり、寄せられた声と共に争議団にお渡ししました。声の一部をご紹介します。

・厳しい状況下での闘争、大変ご苦労さんです。オホーツク管内でも、具体的な支援行動が取り組みず申し訳なく思っ

ています。早急に少額ですがカンパ送金致します。2021年こそ、解雇当事者が主体の運動を展開し納得した解決を勝ち取りましょう。

・お疲れ様です。追い詰めながら、なかなか解決しないもどかしさはニュースを見ていて感じます。いまでは、日本を代表するような争議になっていると思います。よくがんばられているみなさんの呼びかけに、年金暮らしのわずかなことしかできませんが、今日お送りしました。がんばってください。

・長期にわたる闘争に心が痛みます。少額で申し訳ありません。本当はひとけたうで送りたい！

閉会あいさつ  
吉永共同代表 (MIC議長)  
一〇年たつて一〇〇人以上の結集はすごい熱意だ。批判やお褒めを重ねていくことが重要。  
ジェンダー問題は数十年間続いて今、山が動いてきた。かわらないと思うことも変わる。解決させると言い続けることが世の中を変える。共に信じて共闘していききたい。



## 【両労組委員長あいさつ】

### ◇ 日本航空乗員組合柴田委員長

新型コロナウイルス感染の拡大により、航空業界は深刻なダメージを受けているが、十分な手元資金が確保されているとして「雇用と賃金の心配ない」と経営はいうが、ことある度に2010年の経営破綻が脳裏をよぎる。統一要求のもとに粘り強い交渉の中特別協議が開催され、乗員組合からは原告三名の地上職採用が実現し、さらに3名の採用面談が進行中である。地上職採用凍結、余剰人員の他社への出向などが行われている中で、嘱託採用とはいえJAL本体への採用実現は、大きな成果である。

また、ZIPAIR乗務職採用では、原告ではないが、被解雇者から1名、その他元JAL乗員からも5名以上の採用が実現している。これも統一要求への回答であり、これまで皆さんと共に歩んできた運動の成果であると言って間違いない。

今後、希望者の地上職採用を進めていくとともに、引き続き、乗務職としての職場復帰、金銭面での解決といった課題にも向き合い、1日も早い解雇問題の解決に向けて取り組みを進めていきたい。

### ◇ キャビンクルーユニオン古川委員長

長引くコロナ禍により、客室乗務員の本来業務が大幅に減らされ、フライトは月に約4から5日、それ以外は自宅待機・テレワークが一年近く続いている。

CCUでは、コロナ対策を充実させ、安全・安心の提供を要求し、航空内の組織と連帯しながら、国交省、厚労省、定期航空協会にも働きかけを行ってきた。CCU独自の30項目以上の要求がこの1年で前進したのは職場と一体となって取り組んだ成果である。

6000名のCAの内200名を切る組織数だが、アンケートでは1000名を超える人が参加し、賃金ダウン、生活実態、将来不安等の声が寄せられた。

10年で破綻も整理解雇も知らない人が増え、当時を知っている人は一割だ。日航内からの圧力を高めるためには、原告と現役が一体となり、外と内の取り組みを結ぶ運動を繰り広げなければならない。会社との交渉では、社長発言に責任を持って対応するよう厳しく追求していく。株主総会では「解決した」と報告できるよう尽力したい。

# 12月9日 行動

一〇年前の十二月九日はJALからの解雇予告通知が発せられた日です。争議解決を求める半日行動がJAL解雇撤回国民共闘主催で行われました。

## 一、国土交通省前で宣伝

(一二時～一三時)

約一七〇名の参加者で、多くの方から激励・連帯のご挨拶がありました。(一部紹介)

◆支援共闘中岡共同代表 (全労協事務局長)

支援共闘は四つの要求で闘ってきたが、解決の糸口さえ見えない。国交省は当事者ではないと言わんばかりだが、紛れもない当事者だ。

◆支援共闘初代共同代表毎日新聞東海林さん

整理解雇を元に戻すという当たり前のことがJALはできない。コロナ禍の今だからこそこの争議は勝たなければいけない。多くの労働者の支えであり期待の星だ、必ず勝ちましょう！

◆JAL闘争を支える熊谷の会丸山事務局長

赤坂社長の言葉はその場かぎりだ。社長の発言はそんなに軽いのか。長い経験と知識を持った労働者を追い出す卑劣の行いだ。監督官庁の責任は重い。勝利するまで連帯して戦います！

◆神奈川労連宮垣さん

国交省は航空の安全と公共性を守るのが使命。この整理解雇は国家的な解雇だ。安全には経験が必要。民事不介入というがそれで安全は守れるのか！

◆内田客乗団長

ベテラン乗務員を解雇対象と

したことを国交省に問いたい。JAL再生は国交省主導で行われて来た。労使で話し合え、介入はしない責任放棄。争議に関与すべきである。

◆山口乗員団長

整理解雇でなく物言う労働者の排除だった。JALの内向き・無責任体質はずっと変わっていない。今JALはコロナ禍の中で私たちの解雇は放置したまま、雇用と安全は守ると言い、国に支援を求めている。国交省は関係ないと言える立場にない。解決するまで粘り強く闘う。  
\*他にCCU古川委員長、UA争議団から御挨拶がありました。

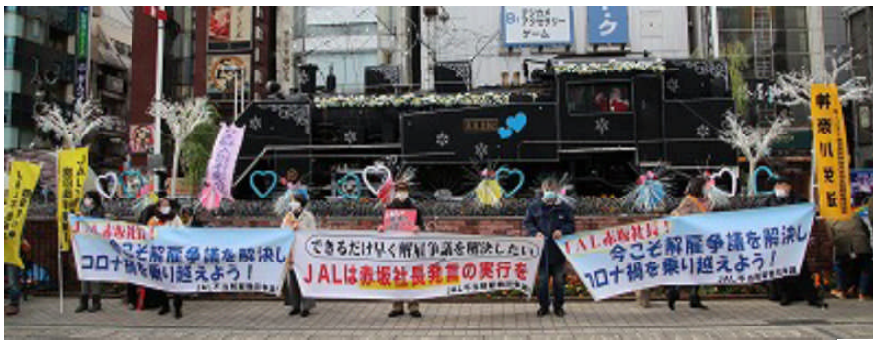
## 二、厚労省で記者会見

JAL国民共闘中岡共同代表 (全労協事務局長) と共に争議団から八名が参加、一二社、一四名の記者が出席し活発な質疑応答がありました。  
又、この記者会見については毎日新聞にも大きく掲載されました。

内田客乗団長発言

客室乗務員は、以前は三〇歳定年、結婚すると退職だった。男女差別雇用を是正させるために闘ってきた者、非正規化の流れの中で非正規化に反対して闘ってきた者が解雇のターゲットになった。物言う女性が封じ込められたことは明白である。





山口パイロット団長発言  
この解雇は整理解雇ではなく指名解雇である。  
JALは私が入社してから事故で七三一名の犠牲者を出している。安全運航確保のために声を出さないとJALには先がないと真剣に思い頑張ってきた。  
ものを言うから切るといっている会社のことではない。

＊団長発言の後、争議団員二人から一〇年の思いを述べました。  
三、新橋SL前広場で宣伝行動(二時半～一四時半)

約一五〇名の参加者でした。新橋駅のホームからもよく見える広場での宣伝はアピール度も抜群で、行き交う人に訴えました。ビラの取りもよく大勢の方にビラを配布することができました。

◆清岡支援共闘共同代表(全労連副議長)

企業には雇用と暮らしを守る責任がある。JAL争議を放置することは首切り自由を許すことになる。解決して安心して働ける、利用者から信頼されるJALになつてほしい。

◆支える会柚木事務局長

解雇される理由は微塵もなかった。事故で七〇〇名以上の犠牲者を出した経営に対し、チェック機能を果たしてきた労組を嫌悪して労組員の首を切った。この体質を変えないと安心してJALには乗れない!



◆争議客乗山田さん  
「お母さん何か悪いことした娘」

(四頁につづく)

## 議員ヒヤリング第二弾!

### JAL解雇争議に関するヒヤリングへの参加要請

新型コロナの感染拡大で「緊急事態宣言」が発令され、感染の収束が見通せません。航空業界では国際線の大幅な運休と国内線での減便が余儀なくされ、貴社におかれても深刻な影響が出ているものと推察致します。

さて、こうした状況下ではありますが、貴社で解雇された165名の労働者の争議は11年目に入りました。長引く争議は労働者の権利や人道上の問題だけでなく、航空の安全への影響も懸念されるところです。

貴社の争議については、昨年11月26日に貴職並びに人事・労務責任者のご出席を求めてヒヤリングを実施したところですが、再確認いたしたい点がございます。そこで、再度「ヒヤリング」を設ける予定ですので、ご参加いただきたく要望いたします。

ご多忙とは存じますが、下記までご連絡いただきますようお願い致します。

自由民主党 江崎鐵磨議員 山本朋広議員  
立憲民主党 福田昭夫議員 早稲田ゆき議員 真山勇一議員(参議院)  
日本共産党 穀田恵二議員 高橋千鶴子議員  
社会民主党 福島瑞穂議員(参議院)  
無所属 芳賀道也議員(参議院)

昨年一月二六日に有志議員一名によりJALからのヒヤリングが行われました。  
しかし、対応が不十分だったことから再度上記の有志議員が植木会長と赤坂社長宛にヒヤリングへの参加要請文を送付しました。  
二月一〇日、会社からは「コロナ禍でテレワークをしている。決算時期でもあり社内でもまとまっていない。まとまったら再度連絡します」との連絡が入ったそうです。  
植木会長、赤坂社長は真摯に対応してください。

【矢上議員(立憲民主党)が内閣に提出の質問主意書に回答】

支える会通信四二号でお伝えした立憲民主党矢上衆議院議員からの質問主意書に対し、内閣からは「お尋ねについては、日本航空株式会社に於ける雇用関係にかかわる問題であ

ることから、同社において適切に対処すべきものと考えている。」という回答がありました。これは、政府は、日本航空が一六五名の解雇争議について、適切に対処していないと認めたことです。今後も有志議員によりヒヤリングなどを行い、JALの責任を追及してくださるものとことです。

の？」と言われ、子供の心も傷つけた。

旅客とは運命共同体、安全のため労働条件向上のため、誇りを持って戦っていた。それを憲法違反までして解雇した。解決まであきらめない！



◆乗員争議団和波さん

者の分まで訴えたい。安全に對してもを言ってきた。それはコックピットからの警告ライトだ。争議解決は私たちの雇用だけの問題ではない。会社に、政府に對してもを言っていかなければならない。

＊他に、東京全労協寺嶋事務局長、全労連仲野幹事、CCU前田執行委員、乗員組合飯田副委員長、郵政ユニオン日巻委員長、JMIITU大岡委員長から御挨拶がありました。

## 12月21日 本社前で争議団 が訴え!

不当解雇から丸一〇年を目前にした一二月二一日、沢山の争議団員で赤坂社長に思いを訴えようと本社前に二九名



12月21日、本社前で訴える争議団＝共闘会議ニュースより

が集まり訴えました。以下は訴えた内容の一部です。

・三八年間、客室乗務員の仕事を誇りを持って働いてきたが、年齢だけ、年解雇された。

・大みそかに首を切られ、家族にも淋しいお正月を迎えさせられた。

・六二〇〇名を採用しても、ILOから4度も勧告が出されても、社長が解決すると発言して、結局は解決しないのは何故か、疑問だけが積み重なる。一〇年は戻ってこない。新たな一歩を踏み出したい。コロナ後を考えても解決は得策だ。

・希望退職応募年齢を四五歳以上としたことから組合潰しを直感した。二〇一〇年十一月時点で社内はすでに上場準備室が立ち上がり、一二月段階で債務超過は解消されていた。不当な解雇だったことは明らか。

早く解決して新たな気持ちで新年を迎えたい。

・仕事が好きで定年まで働きたかったのに悔しい。履歴書は整理解雇と書かれていた。これをなくしたいと一〇年闘っている。年内はまだ一〇日もある。解決の決断をしてほしい。

＊各自の訴えの後、両団長と争議団員は年内解決を本社に要請しました。

## クリスマス宣伝@蒲田&横浜&愛知

【一二月二四日】

蒲田駅東口前広場にて大田実行委員会主催でクリスマス・イブ宣伝が行われ、七四名が結集し、サンタクロースとトナカイの帽子を被ってアピールしました。



【一二月二五日】

桜木町駅前広場にて前広場にてかながわ連絡会主催のクリスマス宣伝が行われ、八名が結集、神奈川県選出の国會議員三名（立憲民主党真山勇一参議院議員、早稲田ゆき衆議院議員、共産党畑野君枝衆議院議員）が駆け付けくださり、激励のご挨拶をいただきました。

【一二月二六日】

JAL解雇撤回愛知の会も名古屋駅前で行った宣伝活動を実施、争議団が参加できませんでしたが、九名が参加しました。

★支援の皆様へ感謝申し上げます。



2021.01.20 @JR 松山駅前 (08:00~08:30)

本日の JR 松山駅前、原告 2 名で 30 分のスタンディングを実施。静かに立っているだけなのに、注目度抜群でした!!



オリ・パラ組織委員会前で

## 宣伝行動

日時：3月25（木）12時～13時  
場所：都営大江戸線 勝どき駅  
トリノスクエア（オリ・パラ組織委員会前）  
主催：JAL不当解雇撤回国民共闘



女性蔑視発言への批判・苦言を受け、森喜朗会長が辞任し、新たに橋本聖子氏が新会長に就任。日本航空は森会長辞任に際して『今後新たな体制でオリンピック精神にのっとり運営されていくことを期待している』(3月12日 時事通信)などとコメントしていました。

オリンピック憲章ではフェアプレーはもとより、男女差別や人種差別など、あらゆる差別の禁止をうたっています。また、組織委員会が定めた『調達コード』では、オフィシャルパートナー企業などに「結社の自由・団体交渉権の承認」、「差別の撤廃」等、ILOの中核的労働基準の遵守を求めています。

そのパートナー企業である JAL は「結社の自由・団体交渉権の承認」に関わる ILO 条約に違反するとして四次にわたる勧告を ILO から受けています。

JAL 争議の早期解決は、「オリンピック精神」や「調達コード」の遵守につながるものです。

組織委員会と日本航空の当該労働との面談がもたれることになっていますが、コロナ禍の中で延期され、いまだ開催されていません。私たちは早期に面談の開催を求めます。

JAL不当解雇撤回国民共闘 問い合わせは TEL 03-3742-3251